

語いと英語教育(8)

発表語い (2)

1. 生徒の立場からみた
2. 教師の立場からみた

外来語と英語教育 (8)

1985年2月

本研究に携わった研究員

森永 誠	石津谷 進	安原 修三
長 勝彦	後関 正明	青木 弘子
備里川 正人	田中 義則	鬼山由美子
原田 博子		

目 次

本書を利用するにあたって	100
発表語い(2)	101
1. 生徒の立場からみた	101
1) 研究の経過	101
2) 生徒が発表したい内容を表現するのに必要な語い	101
3) 発表語い(Productive Vocabulary)リスト	102
4) 「選定語い」に追加する候補としての発表語い	102
2. 教師の立場からみた	103
1) 研究の経過	103
2) 教師が教えておきたい語い	103
3) 調査結果より	106
外来語と英語教育(8)	107
1. 外来語はなぜ、うまれるのか	
2. 外来語は、どのように日本語化してきたか(1)	
3. 外来語は、どのように日本語化してきたか(2)	
4. 外来語(英語)サービス・カードについて	107
5. 外来語(英語)サービス・カード Index	108
6. 外来語(英語)サービス・カード	108
7. 外来語サービス・カードにあらわれた語数	109
後 記	
参考文献	110

目次は発表時のもので、ページの示されていない項目は、このダイジェスト版では省略されています。

本書を利用するにあたって

1. 「語い」とは……〔外来語と英語教育(6)P2より〕
- 省略 -
2. 「基礎語彙」・「基本語彙」・「選定語彙」とは……〔外来語と英語教育(6)P2より〕
- 省略 -
3. Range とは……〔語いと英語教育(7)P2より〕
- 省略 -
4. Semantic Count (= 語、あるいは語中の意味別頻度)〔語いと英語教育(7)P6より〕
- 省略 -
5. 総語彙数および Range 別の語数〔語いと英語教育(7)P8より〕
- 省略 -

発表語い

1. 生徒の立場からみた

1) 研究の経過

日本の英語学習者にとって基本語いと考えられる「選定語い」に「発表語い」(Productive Vocabulary)を加えることについて、調査研究を進めることになった。中学生にとって、身近で、必要な「語い」があればそれは「選定語い」に加えるべきであろう、という考えから、生徒が実際に表現したい内容を調査した。「発表語い」についての考察を進める過程の中で、生徒の立場で、実際の英語を用いるとき、その内容を伝えるのに必要な語いと、教師の立場で、ぜひ必要と考える発表語い、を収集した。

2) 生徒が発表したい内容を表現するのに必要な語い

(1)「生徒が外国人に伝えたいことがら」について、2回にわたってアンケート調査をした。「生徒が、同じ年頃の外国人(欧米・アジア・アフリカ)と知り合いになって、私達の日常生活(衣・食・住・習慣など)、(日本の)学校生活、友だち、趣味・スポーツ・音楽・遊び、(日本の)社会、自分のこと、(日本の)自然、について話し合うとき、具体的にどんなことがらを伝えたいか」について、生徒から得た内容を整理し、数の上でのベスト10は次のようになった。

- [1]私達の日常生活(衣・食・住・習慣など)
- [2](日本の)学校生活
- [3]友達
- [4]趣味、音楽、スポーツ、遊び
- [5](日本の)社会
- [6]自分のこと
- [7](日本の)自然

(2)以上の7つの項目について、実際に英語で表現をするのに必要な語いはどんなものになるのか、これらの内容をできるだけ易しい、簡潔な英語で表してみることになった。試案を作るに当たっては各委員の分担に加えて、GDM(Graded Direct Method)研究会の先生方のご協力、また中学3年生の表現等を参考にし全体で話し合っ、文例を作成した。

- [1] Our daily life (clothing, food, housing, custom etc)
- [2] School life
- [3] Friends
- [4] Hobbies, music, sports and games
- [5] Social problems
- [6] Myself
- [7] Nature in Japan

3) 発表語い (Productive Vocabulary) リスト

2) の(2)で扱った、生徒の伝えたい内容を、実際に英語で表現した場合の語いを整理し、リストにすると次のようになる。(注: 表の中に参考資料として示されているRとSCは「語いと英語教育(7)」に示されたものである。Rは頻度、SCは意味の上での重要度を示している)

Productive Vocabulary List

	R	SC		R	SC		R	SC
A			current	3	3	H		
about	12	1				happen	10	2
activity	4	4	D			happy	12	1
accident	5	3	day	12	1	has	3	・
advanced	3	3	depend	5	3	have	12	1
airline	1	2	destruction	2	・	hell	・	・
algebra	・	・	different	11	2	her	6	1
all	12	1	division	5	4	here	12	1
almost	10	2	do (don't)	9	1	high	12	1
also	10	2	draw (ing)	9	1	his	6	1
among	11	2	dress	11	1	hobby	・	・
amusement	2	5				hot	10	1
and	12	1	E			house	12	1
animal	11	1	each	8	2	how	12	1
another	9	1	electric	7	2			
at	12	1	electronics	・	・	I		
attend	5	3	element (ary)	2	5	I	11	1
away	11	2	enough	12	2	idea	11	2
			especially	6	3	in	12	1
B			event	6	4	incident	・	・

表の中の Range の「・」は「選定語い」にないもの、
SCの「・」はレベル1～5以外のもの

4) 「選定語い」に追加する候補としての発表語い

3) の発表語いリストに表れた230語のうち、Range 1の語は、airline, cheerful, convenient, hobby, math, organ, peaceful, pollution, shy, traffic, uniformの11語となる。「選定語い」リストで Range 1として扱われている語は706語あり、2169語に加えられる語とも考えられるが、今回の調査でリストアップされたことで、検討を要する語となろう。「選定語い」の中に現れなかった語いとして、algebra, bread, cartoon, casual, chopstick, electronics, festival, Fuji, hell, incident, inconvenient, Japanese, junior, Korea, resource, salaried-man, soccer, strict, Tokyo, unique, well-woodedの21語が収集された。日本の中学生にとって、地域に関係する語 - Japanese, Korea, Tokyo, Fuji, 社会問題に関連する語 - festival, incident, resource, electronics, well-wooded, 学校生活に関する語 - algebra, junior, soccer, strict, 日常生活に関する語 - chopstick, bread, cartoonなどが加えられるべき発表語いの候補として見いだされたことは、極めて興味深い。

2. 教師の立場からみた

1) 研究の経過

外国語学習のためには学習者の負担を軽減するために語い制限が必要である。そこで、選定語いリスト作成の準備をするため、昨年度より、日本の中学生が実際に英語を用いて表現したい内容はどのようなものであるか、また、その内容を表現するためにはどのような語いが必要であるかを調査研究してきた。

この項では、学習者である生徒の立場からではなく、教える側の教師自身が中学校三年間の英語の授業の中で、発表語い(Productive Vocabulary)として、どのような語を是非とも教えておきたいと考えているか。東京都内(千代田区・新宿区・文京区・北区・足立区・墨田区・江東区・台東区)の中学校英語科教師50名を調査対象とし、名詞(10語)、動詞(5語)、その他の語(5語)を、アンケート形式で選定してもらった。

2) 教師が教えておきたい語い

(1) 選定された名詞(223語)、動詞(72語)、その他の語(94語)を、それぞれアルファベット順に並べた。

(表1) 名詞

	R	SC		R	SC		R	SC
accident (3)	5	3	average	2	3	cat (2)	7	1
activity	4	4	badminton	・	・	chair (8)	9	1
address	5	1	bag (10)	10	1	championship	・	・
adventure	2	2	ball	11	1	children	4	1
advice	3	3	baseball	・	・	city	10	2
age	9	1	beverage	・	・	class	9	1

英語の次の数字はその英語を選んだ教師の人数を示す

(表2)

度数	選ばれた名詞	度数	選ばれた名詞
21	mother	3	accident (5-3), bag (10-1), beautiful, chair (9-1), dog (12-1), future (9-3), hobby (1-5), language (10-2), letter (12-1), love (12-1), nature (8-2), station (12-2), this (12-1)
20	father	2	cat (7-1), computer, dinner (10-1), expression (1-4) flower (11-1), hand (12-1), man (11-1), music (11-1), news (10-2), notebook (2-2), picture (12-1), place (12-1), rain (12-1), room (12-1), season (9-2), sky (11-1), song (10-2), sorrow (3-5), story (12-1), subject (7-3),
19	friend		
14	book		
10	brother (11-1), English (7-1), name (12-1), school (12-1), sister (11-1), student (8-1)		
9	I (11-1)		
8	house (12-1), pen (7-1), teacher (6-1),		
7	food		
6	desk (4-1), family (12-1), Japanese, peace (9-3), time (12-1)		
5	boy (4-1), home (10-1), Japan (2-2), money (12-1), sport (s) (3-2), way (11-1)		
4	America (5-1), people (10-1),		

度数の欄の数字はアンケート(50名)の中で、右の欄の語を選んだ人数を示す。

例: mother は、50人中21人の人が選んだことを示す。

各単語の右の()内の数字について

例: mother(12-1) 12 は Range 数を示す、1 は Semantic Count を示す。

(表3)

R	度数	%	累計度数	%
12	17	23.6	17	23.6
11	4	5.5	21	29.1
10	25	34.7	46	63.8
9	1	1.3	47	65.2
8	5	6.9	52	72.2
7	2	2.7	54	75.0
6	2	2.7	56	77.7
5	3	4.1	59	81.9

(表4) 動詞

	R	SC		R	SC		R	SC
ache	2	3	excuse	5	2	please	12	1
add	8	3	expect	8	3	promise	8	2
admit	2	3	find(2)	10	1	put	12	1

英語の次の数字はその英語を選んだ教師の人数を示す

(表5)

度数	選ばれた動詞
31	have
19	go
16	get
15	like
13	be(12-1), come(12-1), give(12-1)
11	take(12-1)
9	make(12-1), play(12-1)
7	speak(10-1), want(10-1)
6	do(9-1)
5	live
4	study(10-1), think(10-1), try(10-1), write(10-1)
3	ask(10-1), eat(10-1), help(11-1), read(10-1), tell(10-1), use(11-2), work(12-1)

(表6)

R	度数	%	累計度数	%
12	17	23.6	17	23.6
11	4	5.5	21	29.1
10	25	34.7	46	63.8
9	1	1.3	47	65.2
8	5	6.9	52	72.2
7	2	2.7	54	75.0
6	2	2.7	56	77.7
5	3	4.1	59	81.9
4	2	2.7	61	84.7

(表7) その他の語

	R	SC		R	SC		R	SC
a (2)	12	1	green	8	3	on (5)	12	1
absent	5	4	had better	12	1	only (2)	12	1
again	12	1	had + p.p.	10	3	ouch	.	.
and (2)	12	1	hapy (5)	12	1	pardon (3)	2	3
anxious	3	3	have been ing	.	.	I beg your ~	.	.
anyway	1	.	hi	2	2	please	12	1
ashamed	3	3	honest	5	2	popular	2	3
at	12	1	how (7)	12	1	really	6	1
beautiful	10	1	I see (3)	.	.	right (2)	12	1
because (2)	12	1	in (4)	12	1	selfish	2	4
big	10	1	interesting	5	.	sharp	9	2

英語の次の数字はその英語を選んだ教師の人数を示す

(表8)

度数	選ばれた動詞
15	what
8	good (12-1), where (12-1)
7	how (12-1), when (12-1)
6	sorry (7-2)
5	can (10-1), happy (12-1)
4	in (12-1), will (12-1)
3	fine (8-3), for (12-1), I see, no (12-1), pardon (2-3), to (12-1), who (12-1), with (12-1)
2	a (12-1), and (12-1), because (12-1), big (10-1), international (2-3), many (9-1), may (11-1), on (12-1), only (12-1), right (12-1), some (12-1), the (12-1), yes (12-1)

(表9)

R	度数	%	累計度数	%
12	17	23.6	17	23.6
11	4	5.5	21	29.1
10	25	34.7	46	63.8
9	1	1.3	47	65.2
8	5	6.9	52	72.2
7	2	2.7	54	75.0
6	2	2.7	56	77.7
5	3	4.1	59	81.9
4	2	2.7	61	84.7
3	6	8.3	67	93.0
2	3	4.1	70	97.2
1	1	1.3	71	98.6
0	1	1.3	72	100.0

(2) リストに載っていない語

[名詞] (49 語)

appointment, Atomic-Bomb, automatic, badminton, baseball, beverage, cab, championship, comment, computer, constitution, contact, democracy, director, doll, economy, election, export, expression, face-to-face, ferry, garbage, ghetto, golf, handicapped, hardware, H-bomb, hobby, human, life, import, issue, Japanese, Jesus Christ, luck, medal, movie, passion, pollution, producer, pronunciation, sample, Scotland, scrap, series, sightseeing, software, Wales, weekend

[動詞] (1 語)

envy

[その他の語] (15 語)

anyway, colorful, don't had better, had + pp, have been -ing, I see, maybe, normally, obviously, of course, ouch, I beg your pardon, upset, vivid

3) 調査結果より

[名詞] a 223語が選ばれ、Range 7以上の語は128語で57.3%となる。

b 度数2以上の語は69語であり、度数1の語は154語で69.0%となる。

c 10語の名詞を選ぶことによって、各教師がどのような内容を英語の授業を通して教えたいかがうかがえる。

[動詞] a 72語が選ばれ、Range 7以上の語は54語で75.0%となる。

b 度数2以上の語は32語であり、度数1の語は40語で55.5%となる。

c 5語の動詞を選ぶことによって、各教師がどのような内容を英語の授業を通して教えたいかがうかがえる。

[その他の語]

a 94語が選ばれ、Range 7以上の語は61語で64.8%となる。

b 度数2以上の語は31語であり、度数1の語は63語で67.0%となる。

c 5つのその他の語を選ぶことによって、各教師がどのような内容を英語の授業を通して教えたいかがうかがえる。

外来語と英語教育 - 8 -

1. 外来語はなぜうまれるか

- 省略 -

2. 外来語はどのように日本語化してきたか 1

- 省略 -

3. 外来語はどのように日本語化してきたか 2

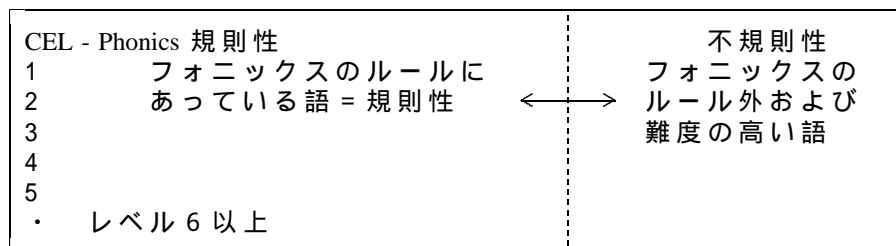
- 省略 -

4. 外来語(英語)サービス・カートについて

1) カードのよみかた

(1) このカードにとりあげる語は、正用法 -S (Same) の語を原則とする。

(2) フォニックス(発音とつづりの規則性)をくみこむ。左欄が規則性を示し、点線の右欄はフォニックスのルール外、または難度の高い語であることを示す。



(3) semantic value (意味別頻度)をくみこむ。CEL は Cambridge English

Lexicon:R. Hindmarsh による。以下の数字 1 ~ 5 は semantic value を示す。

この semantic value はイギリス・ヨーロッパ中心の価値で、日本は視点にはいっていない。発表語いの観点からは難点がある。

(4) 2 音節以上ある語は第 1 強勢 () を付加する。「外来語と英語教育(3)」で報告したように第 1 強勢を付加していれば、カタカナ語でさえ、子音環境によっては母音の無声化・脱落がおこり、かなり英語の音に近づくからである。

(5) Appendix. 1・2 の固有名詞で CEL の 1 ~ 5 にある語は Cambridge English Lexicon による。他のカードの語は「アンカー-英語辞典」学習研究社、等による。

(6) カードによっては、n = 名、v = 動詞、国 = 国名等補足した。

(7) () 内の語は他のカードにもあることを示す。

(8) [] 内の語は O = Overlap または Same and Difference で、注意を要する語、または 2 語よりなること、などを示す。

(9) CEL のレベル(1 ~ 5)と単語数は、次のようになっている。

Level	Total	Cumulative Total
1	598語	598語
2	617 "	1215 "
3	992 "	2207 "
4	1034 "	3241 "
5	1229 "	4470 "

2) サービス・カードと学習者レベルの関連

このサービス・カードは、学習者のレベルに応じて、補足・除去することが実際的である。地域にあった必要な発表語いを補足すること、またレベル・グレードの高い学校ではコンバウンド、suffix、affix 等による意味の拡大等が考えられる。

5. 外来語 サービス・カード Index

- 1) 気候・季節・自然・天体
- 2) いろいろな人の名称 (職業をのぞく)
- 3) 職業
- 4) 動詞 (~する)
- 5) 形容詞 (色)
- 6) 形容詞 (色以外)
- 7) あいさつ・マナー
- 8) 人間の身体の名称・形・病名・薬
- 9) 教室・その中にある物
- 10) 学校関連 (教室の中にある物・数学・音楽・体育関連等を除く)
- 11) 数・時間・曜日・週・月名等
- 12) 図形・数式・単位
- 省略 -
- 35) 恋と悲しみ・戦争と平和

Appendix

- 1) 世界の大陸・国・~人・形容詞・言語等
- 2) 世界の山脈・河川・大洋・島・都市等
- 3) V V-er, V-ing (~する人、~する物)
- 4) V V-er, V-ing (~する物、~する物)

6. 外来語 (英語) サービス・カード

1 . 気候・季節・自然・天体	
CEL Phonics・規則性	不規則性・難
1. air, rain, skay, spring, star, winter	
2. smoke	2. season
3. space, storm	
• aurora, crater, crevasse, monsoon, ozone, savanna(h), smog, squall, typhoon	• oasis

2 . 人に関する名称 (職業を除く)	
CEL ————— Phonics ・ 規則性	不規則性 ・ 難
1. baby, boy, family, king, man [men], queen	1. friend, girl [Mr . = Mr]
2. captain, lady, leader, master	
3. guest, member	3. hero
4. boss, partner, prince, princess, reporter staff, [VIP]	4. couple
5. rival, sportsman, teenager • classmate, expert, gal, mama = mama, medalist, papa, patron, pioneer, playboy, veteran, Viking = viking, volunteer	• boyfriend, girlfriend, heroine, observer, penfriend, playgirl, realist

3 . 職業	
CEL ————— Phonics ・ 規則性	不規則性 ・ 難
1. cook, dancer, doctor	1. policeman
2. (captain), typist	2. police, singer
3. assistant, model, pro, professional, waiter	3. owner
4. driver, helper, judge, manager, salesman, stewardess, waitress	
5. announcer, coach, pilot, producer • cowboy, dressmaker, gang, gunman, [part-time], pianist, programmer, [salaried man], spy	• designer, keypuncher

4 . V (~ する)	

7 . 外来語サービス・カードにあらわれた語数

No.	Phonics	不規則	合計	[]	()
1	18	2	20	0	0
2	33	11	44	3	0
3	27	6	33	2	1
4	29	3	32	1	0
5	12	5	17	4	0
6	36	5	41	0	1
7	9	1	10	2	0
8	27	7	34	0	0
9	27	2	29	0	0
10	23	5	28	1	1

総計	1001	195	1196	54	91
----	------	-----	------	----	----

フォニックスのルールにあった語の総計は1001語

不規則性および、規則性であるが難度が高い語の総計は195語

サービス・カードにあらわれた語数は1196語となった。

()内の語は2語よりなる語、略語、注意を要する語で総数は54語である。

()内の語はカードに重複してあらわれた語で総数は91語であるが、これは総語数とは無関係となる。

後記

- 省略 -

参考文献

Cambridge English Lexicon: Hindmarsh: 1980 Cambridge

Basic English: Ogden

English Through Pictures, Book , Book : .A-Richard & C. Gibson 1976

「外来語と英語教育3～7」1978～1983東京都中学校英語教育研究会・研究部

パーマー賞受賞校の実践記録：語学教育研究所編：1983年 大修館書店

漢字音読語の日中対応：文化庁：昭和58年5月：大蔵省印刷局